

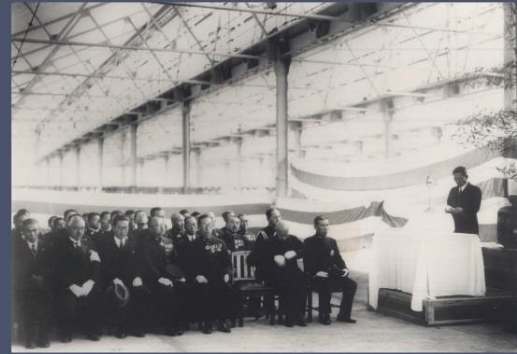
# 豊川海軍工廠の開庁

昭和14(1939)年12月15日、豊川海軍工廠は開庁の日を迎えました。開庁時に完成していた施設はまだ第一機銃工場など一部で、初代工廠長には神保勉一少将が着任し、機銃部と火工部の二つの造修部門でスタートしました。この日、完成したばかりの建物内で行われた竣工式は午前11時から始まり、横須賀鎮守府司令長官の長谷川清大将、横須賀海軍建設部長、豊川海軍工廠長、豊川海軍工廠職員、横須賀海軍建築部職員ならびに工事関係者ら約100人余りが参列しました。



名古屋新聞(昭和14年12月15日付)  
三河版に豊川海軍工廠の開庁に関する記事が大きく掲載されました。

開庁の前日には、横須賀海軍軍楽隊が豊川駅に到着し、駅前広場では豊川町長をはじめ約千人が出迎えるとともに花火を打ち上げ歓迎しました。その夜には豊川劇場、竣工式当日には八幡西部小学校、国府小学校、翌日には半久保小学校で演奏会が行われ、豊川海軍工廠開庁を盛り上げました。



竣工式式典の様子  
第一機銃工場で行われました。この建物は今も日本車輛製造(株)の工場として利用されています。



横須賀海軍軍楽隊の豊川稲荷での行進